

# 稲造の父祖は花巻の発展に尽力した武士

「願はくはわれ太平洋の橋とならん」との信念のもと、世界平和のため尽力した国際人・新渡戸稲造の先祖は、1598年(慶長3年)から約230年間、花巻市高松安野の地に居住し、代々文武両面にわたって花巻城土の指導的役割を果たしました。また、新田開発など地域の発展に貢献しています。

稲造の祖父・新渡戸傳(つとう)は、1793年(寛政5年)に花巻で生まれ、生涯の大事業である十和田二本木平の開発に、子の十次郎(稲造の父)とともに着手し、十年を費やす難工事の末、人工河川稲生川の通水に成功し、今日の十和田市発展の基礎を築きました。



揮毫は新渡戸稲造のご令孫、加藤武子氏によるもの

# Bushido

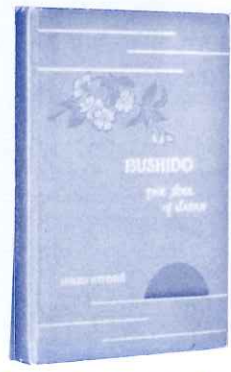


1984年発行の5000円紙幣。

## ●新渡戸稲造と花巻

曾祖父(兵学者)、祖父(先駆者)、父(藩外務官)に、稲造は限りない尊敬の念を抱きつづけていました。これら父祖が活躍した地である花巻を心の支えとし、偉大な業績を残しました。

新渡戸稲造の代表的な著書「武士道」は、日本文化の伝統の中に人類共通の道徳があることを、世界に紹介したいと願って英文で著しています。その後、ドイツ語、フランス語、ポーランド語、ノルウェー語、ハンガリー語、中国語、ロシア語、アラビア語等に翻訳され、世界中の反響を呼んでいます。



「Bushido」原書。セオドア・ルーズベルトアメリカ大統領が愛読し、周囲にもすすめたという。



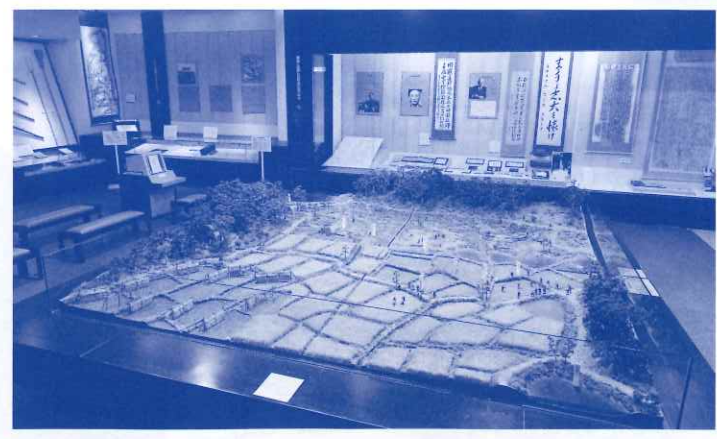
セオドア・ルーズベルトアメリカ大統領からいただいた懐中時計



新渡戸家の家紋「月星紋」がついた馬印

## ●新渡戸氏と新田開発

代々新田開発に情熱を傾けてきた新渡戸氏一族は、日ごとに藩の財政が苦しくなり、下級武士や農民の困窮した生活をまのあたりにして、新田の開発の必要を痛感し、ひいては藩にも利益をもたらさずという信念の下に事業を進めました。



新田開発の様子を伝えるジオラマ

## 展示室

武将、信仰、兵学者、新田開発等を展示の柱とし、甲冑・刀・槍・文書・遺品など約200点と、2面スクリーンやパソコンによるQ&Aなど、新渡戸氏と花巻の歴史にふれることができます。また、「新渡戸稲造の生涯展」では、業績・活躍の足跡を年代順に紹介しています。



交通アクセス	宮沢賢治記念館から1.5km:車で3分
	東北新幹線新花巻駅から3km:車で5分
	東北自動車道花巻南ICから7km:車で15分
	釜石自動車道花巻空港ICから5km:車で8分

利用案内	開館時間/午前8時30分~午後4時30分(見学は午後5時まで)
	休館日/12月28日から1月1日まで(燻蒸作業のため臨時休館あり)
	入館料/個人 一般300円、小中高生150円
	団体 一般250円、小中高生100円(20人以上の団体に適用します)
共通券/宮沢賢治記念館、宮沢賢治童話村、花巻市博物館との共通入館券あり	

# 花巻新渡戸記念館